



兵庫県議会議員
政務調査会筆頭副会長
文教常任委員会委員

第18号

春名 哲夫 県政報告

■発行日 平成28年3月27日

■発行者 春名 哲夫

◀宍粟市が適地！予算特別委員会で（平成28年3月10日）

次代の森林・林業を担う人材育成

特集号 誘致

県立森林大学校の設置・管理条例が可決

「兵庫県立森林大学校の設置及び管理に関する条例」が平成28年3月22日に開催された第331回定例県議会本会議において賛成多数で可決いたしました。

これにより、平成29年4月、宍粟市内に開校することが正式に決まりました。設置場所は、宍粟市一宮町能倉の小学校跡を改装します。ただし、この小学校は合併することは決まっていますが、まだ2年間は生徒がここで学んでいるため、改装はその後になります。それまでの間（平成29年4月～平成30年3月）は、一宮町安積にある市の第2庁舎をお借りして開校することになります。

設置場所：宍粟市一宮町能倉（平成29年4月～平成30年3月は宍粟市一宮町安積）

▷平成28年度森林大学校の運営に関する予算4500万円◁
地方創生推進交付金事業として県内外から森林林業を
学ぶ若者の拠点として、専修学校の整備を進めます。

兵庫県立森林大学校が宍粟市に開校

経緯

兵庫県では昨年（平成27年）2月定例会で地域創生条例を可決しました。

それに伴い27年9月定例会で地域創生戦略を議決しました。その地域創生戦略の中に入りあえず林業大学校の文字を入れていただきました。9月に可決してから知事他県当局の宍粟市決定を詰めるべきと思っておりましたところ、この内容を県議員の大半がまだ知らない昨年の8月「林業大学校宍粟市が誘致へ始動」と新聞報道があつたのですから、大変焦りました。

それからは、多可町や養父市・朝来市他関係しそうな議員に理解を求めたり、知事と林業大学校を検討する有識者会議のメンバーに、私の想いを書いたペーパーを渡して説明するなど悪戦苦闘の感じでしたが、結果的には宍粟市の強い要望と受け入れに関する市の支援体制が実を結んだと言え

なぜ森林大学校が必要なのか？

充実

* 本県では戦後から植栽されたスギ・ヒノキなど人工林資源22万ha、46年生以上の利用可能とされる面積は66%を占めるなど森林資源は

* 頻発する局地的豪雨等の異常気象により山地灾害は多発しており森林の適正管理により多面的機能の増進を図ることが求められている

* 林業労働者は平成5年度18399人から平成25年度末900人と20年間で半減、近年若返り傾向はあるがこのままだと20年後は688人程度と推測され森林整備の水準の低下が懸念される

* 人口減少社会を迎える将来、建設業等の産業間や産地間で人材確保競争が激化する

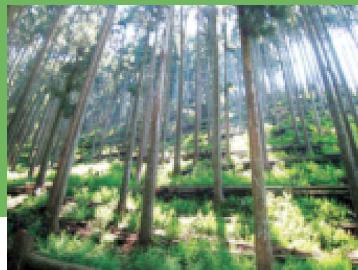
* 兵庫県には森林林業に関わる人材養成機関の林学系の大学や森林大学がない、実質兵庫県から京都府林業大学校に2人（平成25）3人（平成26）3人（平成27）、高知県林業学校へ2人（平成27）

* 就業時に大学校のある府県にとどまる学生は55%

などの事から兵庫県に森林大学校が必要と考えます。

「ひょうご林業大学校」から 「兵庫県立森林大学校」への経緯

農政環境部局や担当者レベル、さらには有識者会議まで「ひょうご林業大学校」の仮称で進んでおりました。私は平成9年山崎高等学校のPTA会長の時には「林業科・家政科」でありましたが、今からの時代は林業ではなく、森林や環境でなくてはならないと思い、当時の貝原知事に全県下対象の山崎高校林業科を日本一にする為、林業を森林か環境に名称変更お願いしたいと、手紙で直談判いたした結果、何年か遅れて森林環境学科に変わりました。それほど森林にこだわりを持っておりました。同時に宍粟市は「森林から創まる地域創生」を昨年11月に謳っておりましたので、何とかしなければいけないと思い、1月30日（2月18日開会する議会へ提案される限度）、井戸知事と会い再び説明をしました。理解を頂いたのでしょうか、2月4日の記者会見にて、井戸知事は「兵庫県立森林大学校」を発表いたしました。井戸知事に感謝です。



森林から 創まる 地域創生を

なぜ森林大学校は宍粟市に？

平成3年に初めて山崎町議会議員に当選させていただきましたが、その2年前の平成元年、しそう森林王国・ミニ王国建国から宍粟市（宍粟郡）の森林は本格スタートしております。

- ◇ 平成4年 宍粟の森林を県民オアシスに、県民協定締結（貝原知事）
- 平成5年 県立山の学校が五十波に開校
- 平成7年 県立森林林業技術センターと改称、森林資源、環境部設置
- 平成11年 近畿中国森林管理局兵庫森林管理署として山崎に残る
- 平成15年 山崎高等学校、林業科から森林環境学科に改編
- 平成22年 兵庫県木材センター創業
- 平成27年 県下初めての森林セラピー

去る3月10日の予算特別委員会では、宍粟市面積の90%が森林であり、宍粟市が謳っている「森林から創まる地域創生」の実現に欠かせない機関であること、そして、山崎木材市場、しそう森林組合等の現状を説明し、「これらの経緯から、議員の皆さんには兵庫の森林・林業・環境等をもっと理解していただければ、兵庫に森林大学校は必要であり、宍粟市が敵地である事をお分かり頂けるはず」と力説し、宍粟市誘致に理解を求めました。

私の思い

全国の若者が入学したい学校に 宍粟全体が キャンパスともに魅力づくりを

経緯のところで少し述べました
が、宍粟市に兵庫県の地域創生事業
が誘致できたのは福元市長の熱心な
アプローチがあつた賜物と思っており
ます。

私は当初から、「林業でなく森林
でいいたい」「県立大学の短期学部
がだめなら4年大学へ編入できる学
校教育法による専修学校だ」「学生
寮はだめだ、一戸建空家活用だ」
「全国から注目される樹木医学も力
リキュラムに」など、多くを取り入れ
ていただいたことに感謝しております。

しかし、これからが正念場であります。全国から若者男女が入学してみようと思う魅力ある森林大学校を開校しなければなりません。そして宍粟市にとって人口減少対策や地域の元気づくりに繋がらなければなりません、そのためには山崎高校・伊和高校・千種高校の存在も同時に考えなければならないと思っております。そして先進森林王国ドイツも加えるべきと考えております。

高校から○名、伊和高校から○名、
森林大学校入学に関しては、山崎

千種高校から○名、○○高校から○
名の推薦枠を設けるとか、また、大
学校を卒業して兵庫県（宍粟市）に
定住し森林就職した者は授業料を半
減還付なり免除還付してはどうか、
などすでに提言しております。

いずれにしても開校1年前の受け
入れ準備として福元市長が言われて
いる「地域における育成協議会」が
非常に重要となります。

宍粟市全体が森林大学校のキャン
パスがゆえに市民の皆さん、ご支援
ご協力の程お願いいたします。

事務所のご案内

県政のご相談は お気軽に春名事務所まで

〒671-2576
兵庫県宍粟市山崎町鹿沢237-5
(HTOビル2F)

TEL 0790-63-0770
FAX 0790-63-0760

兵庫県議会議員 春名哲夫